

静岡で中部圏知事会議

若年がん患者対策を 県、統一支援制度を提案

本県などの県1市の中部圏知事会議は5日の静岡市清水区の会場で、インフラ整備の促進や地方創生、防災対策の推進、豚コレラ対策の充実など国に提言する16項目を決定した。川崎市多摩区の児童らの殺傷事件や滋賀県大津市の保育園児死亡交通事故を受け、子どもの安全確保に一致結束して取り組む決議も採択した。

国への提言のうち、患者対策に関し、各都 統一した支援制度の創設の必要性を訴えた。具体的には①がん治療により抗体価が低下した場合のワクチン再接種を法制上の定期予防接種に位置付ける②がん治療に伴う生殖機能温存療法の費用支援③40歳未満のがん患者の居宅サービス経費支援④医療用ウィッグ（かつら）や乳房補整具の購入費用支援を求めた。

中部圏知事会議での本県提案
▼若年がん患者対策の推進
▼南海トラフ巨大地震などに向けた地震・風水害対策の推進
▽子どもの安全確保に対する取り組み（決議）

2019年
6月6日
朝刊

① 若年がん患者の現状を調べてまとめよ。

② 静岡県が国に対して提言する意義を説明せよ。

③ 災害時に高校生が果たす役割を考察せよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石 克巳（静岡県立静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考>①＝医学に関する問題、②＝政治学に関する問題、③＝防災学に関する問題